

活力部会アンケート調査結果 (速報) について

○対象及び回答数

活力部会委員・専門委員 25 名 (回答率 100%)

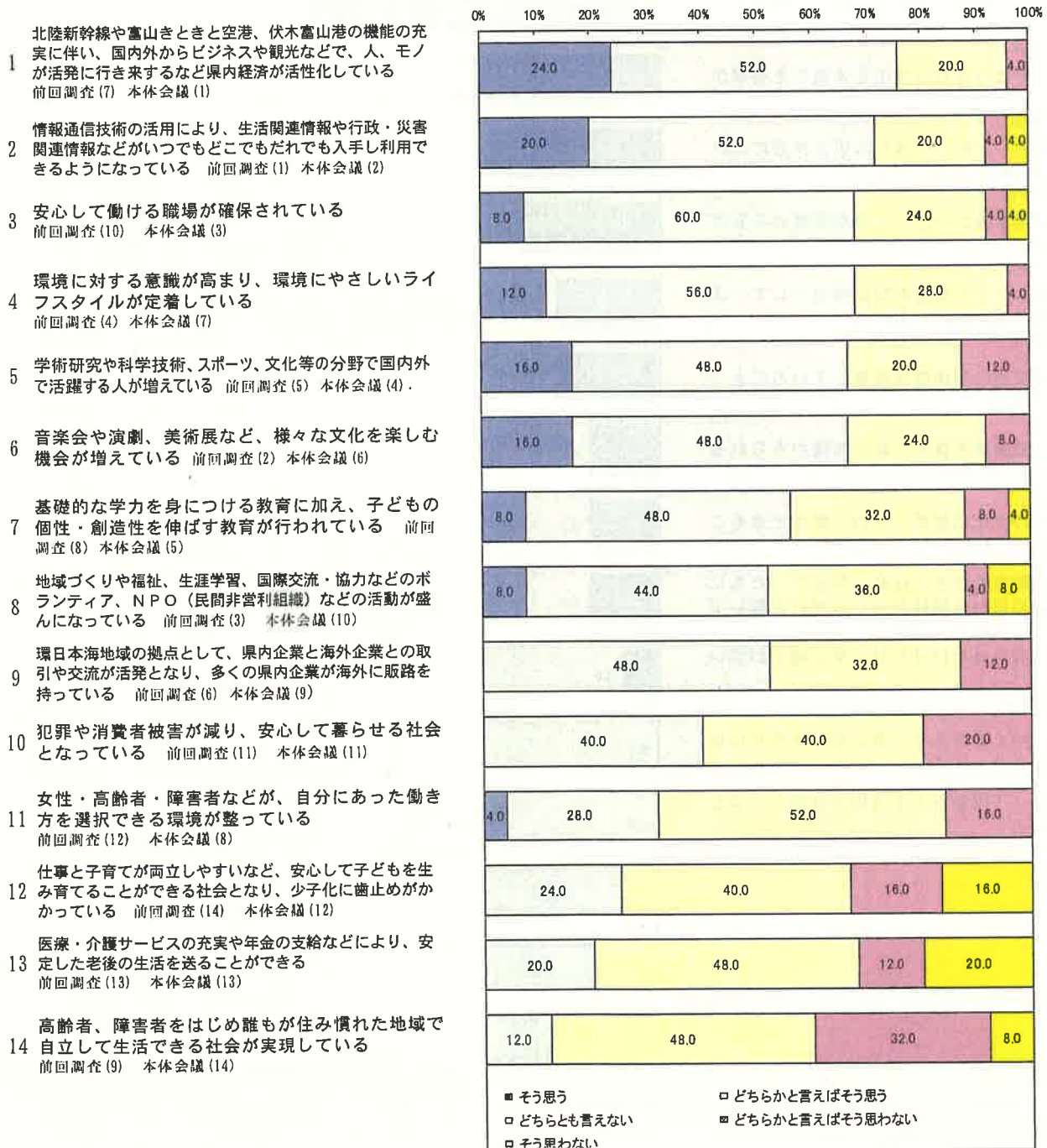
今後 10 年の県づくり

1. 10 年後の県民生活はどのようになるとお考えか

北陸新幹線等による県内経済の活性化(76.0%)や情報化の更なる進展(72.0%)が上位となっている。一方で老後の生活や住み慣れた地域で自立して生活できることへの不安感が強い。

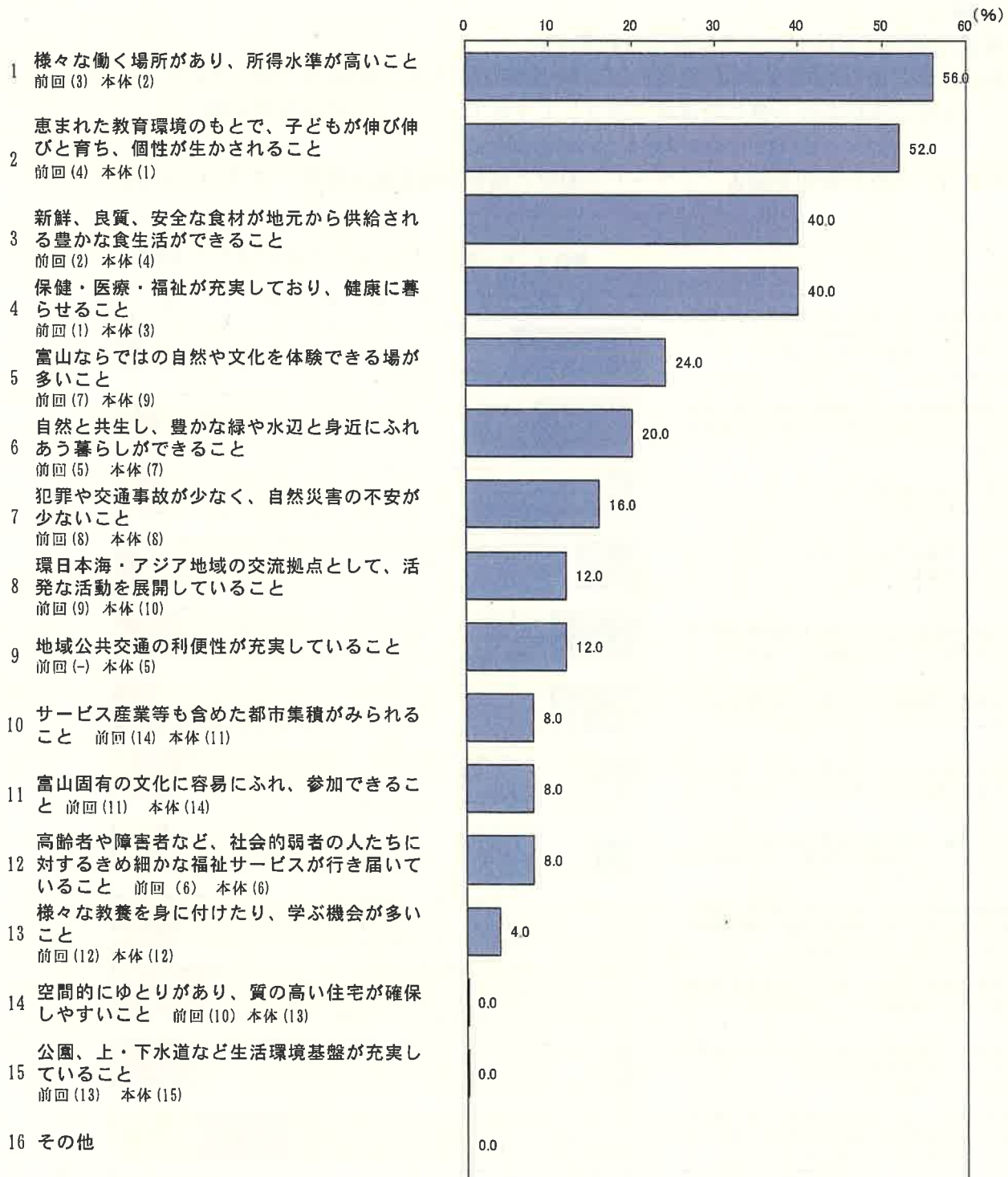
※下記 () は H22 の前回有識者アンケートの順位と総合計画審議会委員 (41 名分) の順位

順位は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の選択数



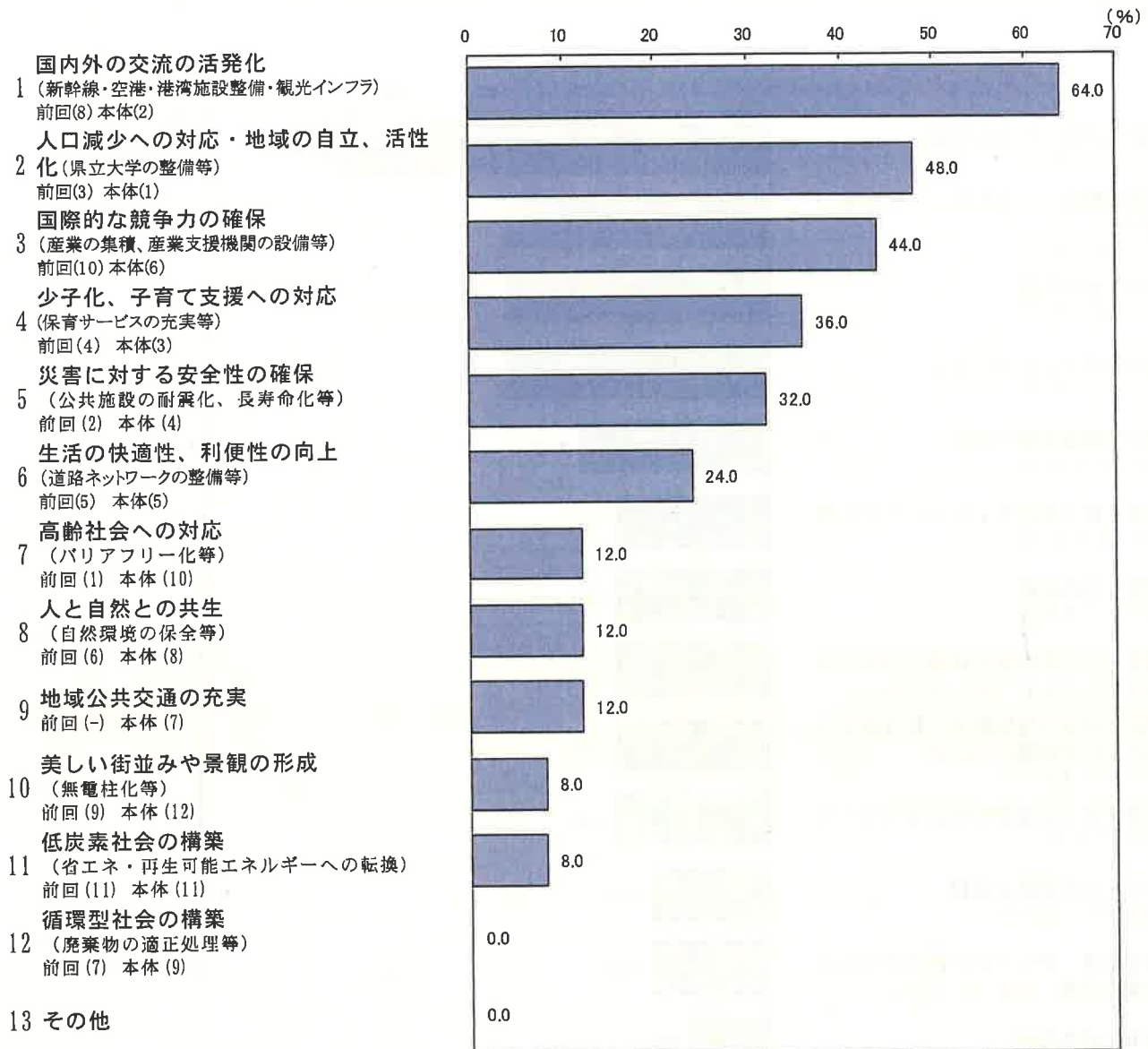
2. 富山の魅力形成のために特にどのようなことが重要か (3つ選択)

「様々な働く場所があり、所得水準が高いこと」(56.0%)、「恵まれた教育環境のもとで、子どもが伸び伸びと育ち、個性が生かされること」(52.0%)、「新鮮、良質、安全な食材が地元から供給される豊かな食生活ができること」、「保健・医療・福祉が充実しており、健康に暮らせること」(40.0%)の順となっている。



3. 県土づくり(社会資本整備)施策としてどのような成果を重視して整備を進めるべきか (3つ選択)

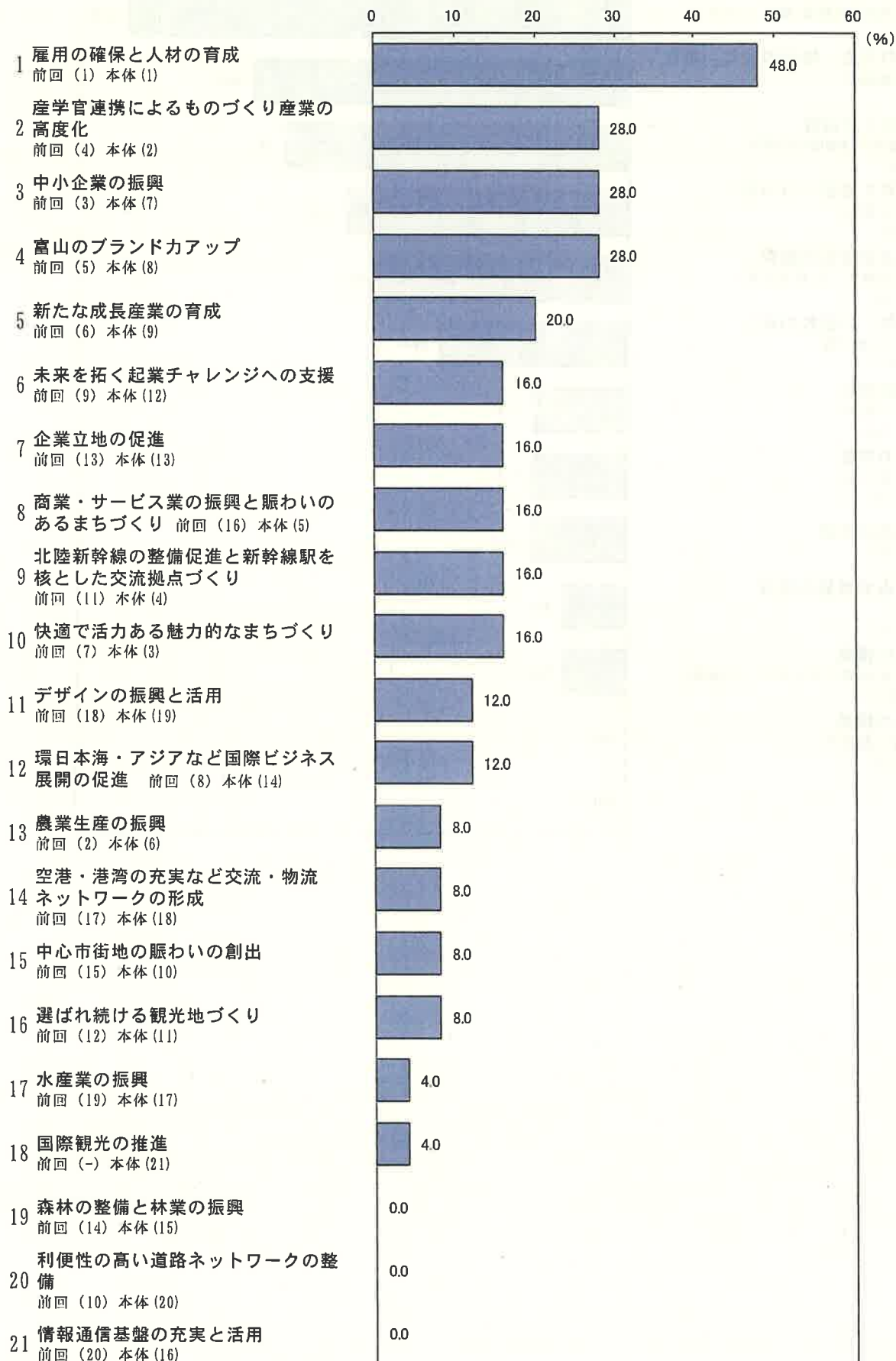
「国内外の交流の活発化」(64.0%)、「人口減少への対応・地域の自立、活性化」(48.0%)、「国際的な競争力の確保」(44.0%)の順となっている。



4. 今後10年間を通して特に重点的に推進していくことが求められる施策は何か

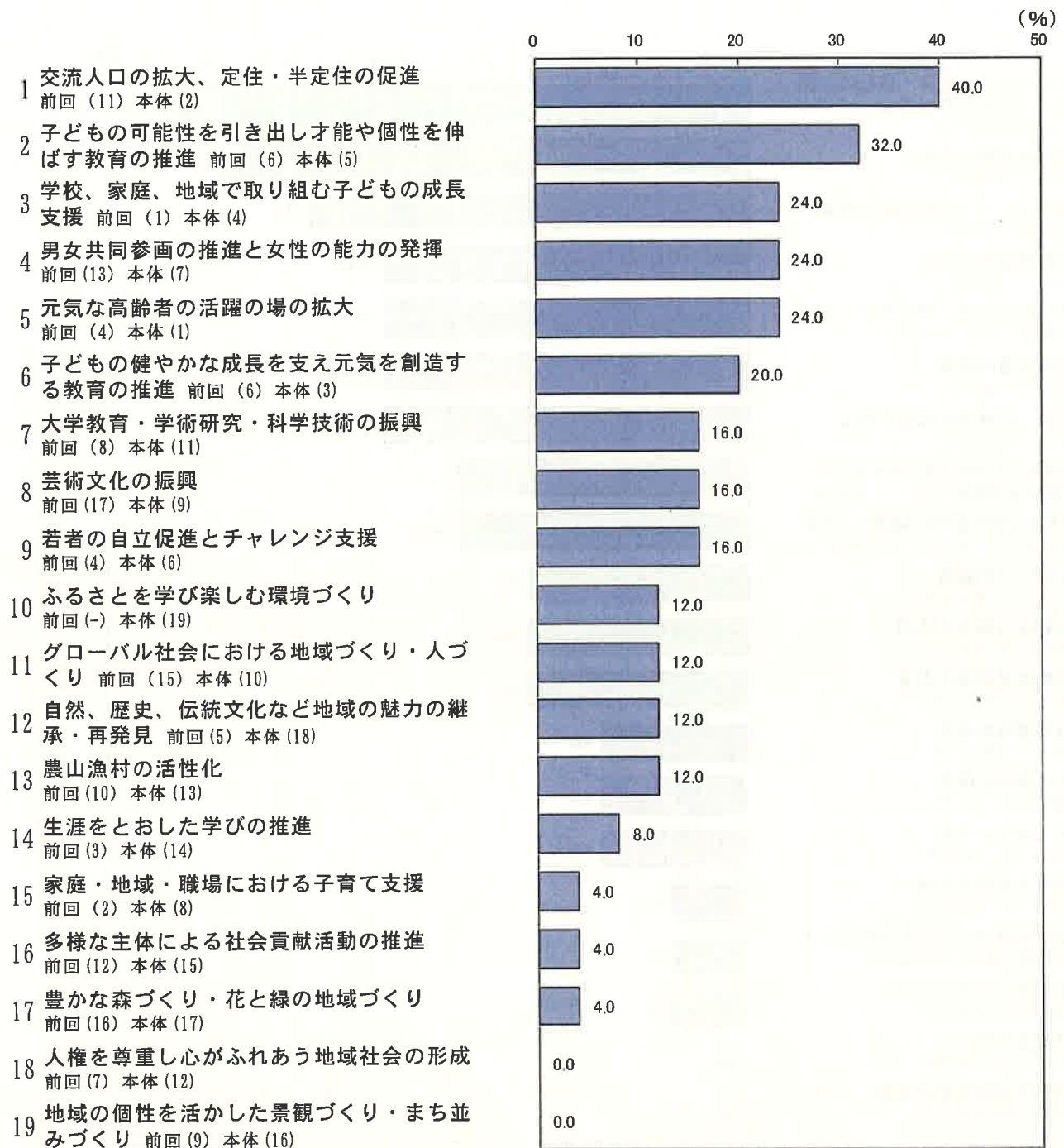
(1) 活力 (3つ選択)

活力分野では、「雇用の確保と人材の育成」(48.0%)、「産学官連携によるものづくり産業の高度化」、「中小企業の振興」、「富山のブランドカアップ」(28.0%)の順である。



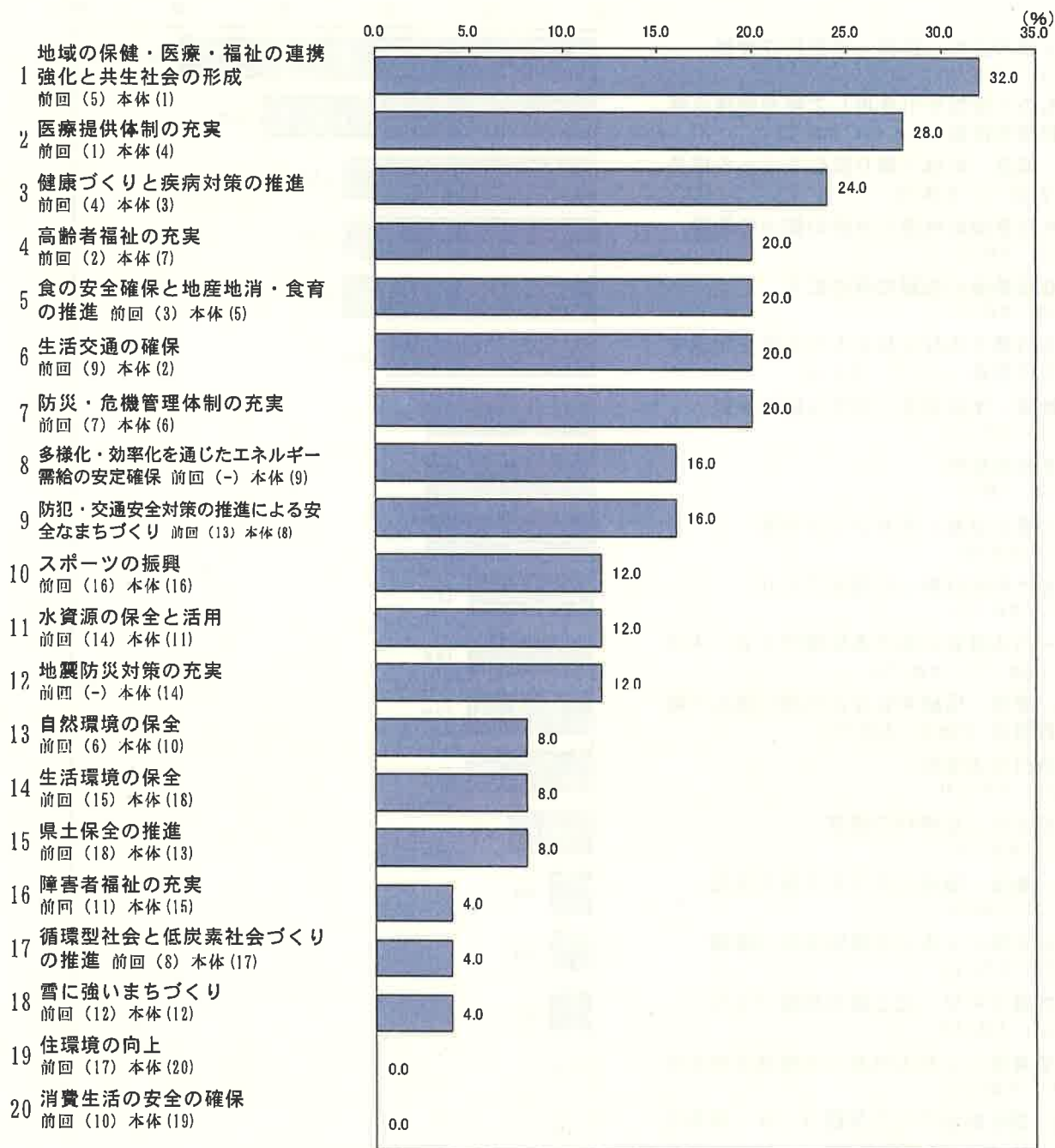
(2) 未来 (3つ選択)

未来分野では、「交流人口の拡大、定住・半定住の促進」(40.0%)、「子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進」(32.0%)、「学校、家庭、地域で取り組む子どもの成長支援」、「男女共同参画の推進と女性の能力の発揮」及び「元気な高齢者の活躍の場の拡大」(24.0%)の順である。



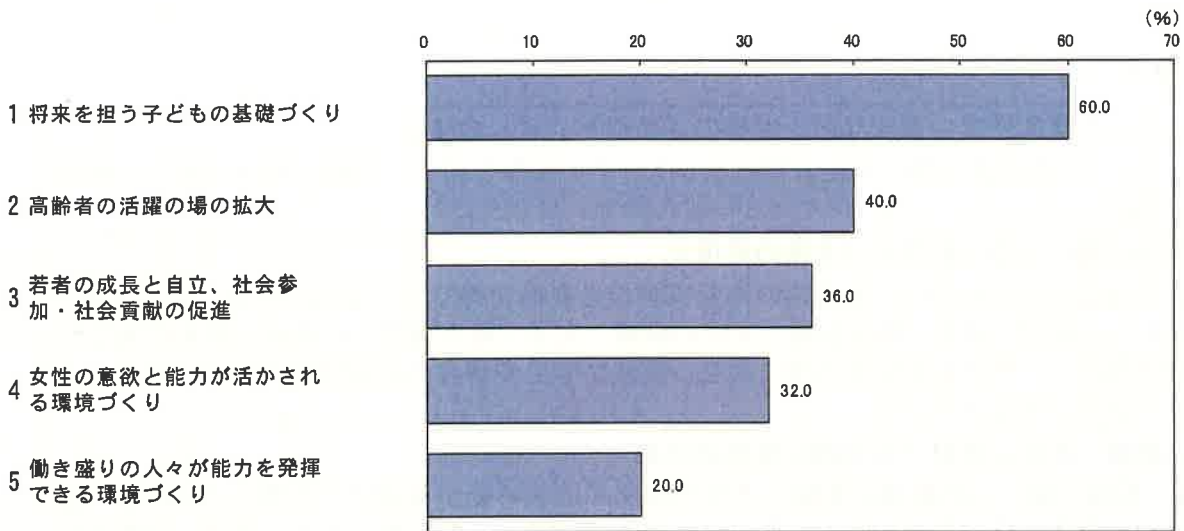
(3) 安心 (3つ選択)

安心分野では、「地域の保健・医療・福祉の連携強化と共生社会の形成」(32.0%)、「医療提供体制の充実」(28.0%)、「健康づくりと疾病対策の推進」(24.0%)、の順である。



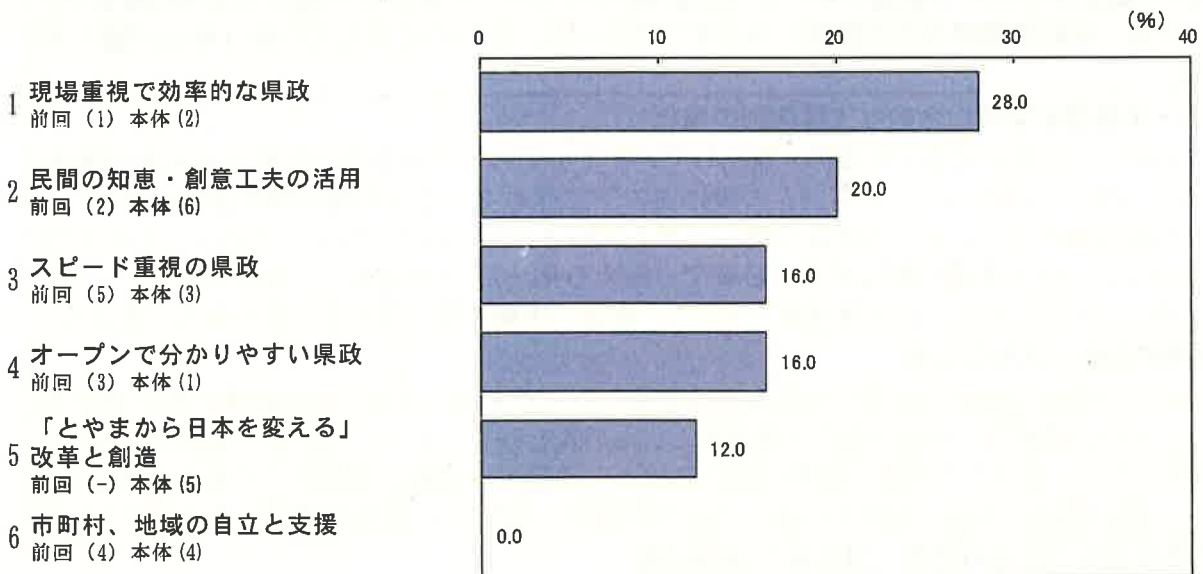
(4) 人づくり (2つ選択)

人づくりについては、「将来を担う子どもの基礎づくり」(60.0%)、「高齢者の活躍の場の拡大」(40.0%)、「若者の成長と自立、社会参加・社会貢献の促進」(36.0%)、の順である。



(5) 行財政改革の推進 (1つ選択)

行財政改革の分野では、「現場重視で効率的な県政」(28.0%)、「民間の知恵・創意工夫の活用」(20.0%)、「スピード重視の県政」及び「オープンで分かりやすい県政」(18.0%)、となっている。



審議会委員アンケートの自由意見（抜粋）について

○活力分野にいただいた意見

| |
|--|
| <p>2. 医薬・バイオ関連産業の育成など、世界の「薬都とやま」の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりの伝統を医療、福祉分野で活かし、ICTなど新しい技術も加えた新たな成長産業の創出 |
| <p>3. 産官学の連携によるものづくり産業の高度化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産官学連携によるものづくり産業の相互支援の必要性を感じる。富山の文化、産業（魚・林・農）への提言、研究、技術支援、文化の振興、大学・研究機関への助成（開発費用や研究助成金制度）、特色ある産業展開により、優秀な学生や若者の就職機会が増え、他県からの流入も期待できると考える。 |
| <p>5. 人口の増加・定着に結びつく多様な企業の立地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関東、関西方面への新幹線の整備により短時間の広域移動が可能になる事から、企業の誘致を行い、企業立地の促進を図る。富山の特性をアピールし、県外から人の集積、若者の定着につなげていく。 ・企業の立地や若者（高齢者も）の起業チャレンジ支援・ベンチャー企業の育成などを図り、人口の流出を防ぐ。 ・耕作放棄地を中心に整備されることが多いように見受けられる。水資源や環境保全も含めて、計画的な開発が必要と考える。 ・北陸新幹線の開通により、利便性や交流人口は確かに増大している。しかし、乗車人員の3倍は上越一糸魚川地区での比較であり、その経済効果の大半は金沢に流れていることは明白。よって、富山では観光面のメリットはあっても中心市街地、特に商業面でのメリットは少ない。観光面の様々な整備やサービスは必要だが、もっと定住人口が増える基本的政策（学校・工場・政府系機関などの誘致）が必要ではないか。まちづくりも人の集う地元の魅力が必要。 |
| <p>6. 中小・小規模企業の総合的な支援体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ものづくり県とやま」を維持・強化していくためには、中小企業の振興が不可欠の要素であり、特に、現在「チーム富山」の掛け声の下で進めている企業間連携を確実に実現し、より付加価値が高く、より高機能な商品提案を目指さなければならない。さらに、その実現のためには、中小企業の製造革新が必要で、見える化・IT化を推進し、効率化を図り、あたかも一つの会社のように企業連動できるIOT基盤の構築を推し進める必要があると考える。 |
| <p>10. 雇用の確保と人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内での雇用の確保や安定した経済力は定住にもつながり、若者の自立促進にもプラスとなる。人材の育成は、富山の活力を生み出し、人が人を呼び、すべての事柄の原動力になる。 ・県外の大学に進学した若者が故郷の富山に戻って就職する施策を積極的に実施してほしい。また、富山県内の大学、短大に進学した学生が県内に就職する施策も同時に進めてほしい。 |
| <p>14. 森林の整備と林業の振興、県産材の活用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木材価格の安定が重要である。 |
| <p>19. 高速道路、幹線道路から生活道路までの道路ネットワークの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、都会に住む人から富山は便利で近いと思ってもらうことが重要と考える。 |
| <p>23. 選ばれ続ける観光地づくり ー海のあるスイスを目指してー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光地の施設、資源のグレードアップを図るために、適切な資金の支援、技術、情報の供与を行うべきと考える。 |

24. うるおいのあるまちづくりと中心市街地の賑わいの創出

- ・新しい美術館の完成によって、環水公園周辺の開発が大いに進み、明るく楽しい“憩い”の場で母や子、また、家族やカップルが気軽に出かけ空間・時間を共有してもらいたい。
- ・北陸新幹線の開通により、利便性や交流人口は確かに増大している。しかし、乗車人員の3倍は上越一糸魚川地区での比較であり、その経済効果の大半は金沢に流れていることは明白。よって、富山では観光面のメリットはあっても中心市街地、特に商業面でのメリットは少ない。観光面の様々な整備やサービスは必要だが、もっと定住人口が増える基本的政策(学校・工場・政府系機関などの誘致)が必要ではないか。まちづくりも人の集う地元の魅力が必要【再掲】。
- ・高齢者が車を手放しても不自由なく移動でき、買い物に困らず文化的な生活ができるように交通網の再整備が必要である。中心市街地に現在の郊外機能を集約させて、街として活気が生まれればおのずと観光客も足を伸ばす場所となるのではないか。強引な都市再開発ではなく、個人の店を大切にしてほしい。地権者の方に理解してもらっていい街になってもらいたい。
- ・高岡市でも中心市街地の再生は喫緊の課題である。行政の支援と同時に大切なのは、そこに住んでいる人の意識改革である。行政頼みではなく、自分のまちは自分で復活させるという覚悟を持った人を育てることが重要である。

26. 「立山・黒部」の世界ブランド化と戦略的な国際観光の推進

- ・“ものづくり”への投資はグローバル競争の中で埋もれ sunk cost 化する可能性が高いと考える。北アルプスを中心とした観光資源を最大限活用すべく、岐阜・長野・新潟との連携を深め、協同で開発していくことで、経済的な投資効果を高めることができるのではないか。
- ・富山県の雄大な自然を海外にPRし、外国人観光客を呼び込む。

28. 観光人材の育成とおもてなしの心の醸成

- ・観光の重要性、地域への貢献を理解し、ひいては県の観光力アップのために、将来的に小学校レベルからの「観光教育」の実施を検討いただきたい。

30. 富山のブランド力アップに向けた戦略的展開

- ・県外でとやまをアピールできる広報ツールを利用したプロモーション活動。特に種類を絞り、シンプルかつインパクトの強いものが良い。
- ・少子高齢化・経済の低迷の解決には、富山のブランド力を更に磨きこみ、民間のパワーアップを図ることが必要と考える。

全般

- ・単に補助金を出すのではなく、投資的な要素を加味することも重要。例えば、空き家の店舗リフォームについて、補助を出すのではなく、投資とすれば、収益を上げる(県内経済活性化)ためのドライブがかかる。失敗してゼロになっても、結果は補助と同じではないか。

